〔駒沢女子短期大学　研究紀要　第38号　P.19～26　2005〕

N小学校における「英語活動」に関する意識調査（1）
—N小学校現職教員に対するアンケート調査をとおして—

金　澤　延　美

A Report of the Survey Responses to Results "English Activities" at N. Elementary School (1)

Nobumi KANAZAWA

I　はじめに

1992年12月に臨時行政推進審議会が「小学校でも英会話等外国語会話の特別活動の推進」を取り上げ、1993年7月には、外国語改善に関する調査協力者会議（文部省諮問機関）が「実践研究をいっそう積み上げることが適当」と提言した。文部省はこれを受けて、小学校における外国語学習に関する研究開発学校として大阪市立真田山小学校、味原小学校を指定し、3年間の実践研究が始まった。

2002年4月からは新学習指導要領の「総合の学習の時間」の中で、外国語（英語）を導入することができるようになり、公立小学校においても子どもたちが授業の中で「英語」にふれる機会が拡大した。

N小学校では、「総合の学習の時間」の設置の前年度より、I区教育委員会の事業「I区子ども外国語学習推進事業」の一環として、5年生対象に週2回外国人講師を招き、「英語学習教室」を10月から実施した（各1単位時間、10月から2月まで30単位時間）。

この実績を踏まえ、N小学校では平成16年度4月より区の奨励校として「全学年での英語活動導入」を開始した。筆者は平成13年度より同小学校での支援を始め、平成16年度より研究授業について定期的な助言を行っている。

今回の調査と類似のアンケート調査には、日本児童英語教育学会（JASTEC）の調査（2001）がある。この調査では、中学校および高校教員を対象に小学校における英語活動に対する意識や態度について調査し、今後の小学校活動の方向性を考察することを目的としているので、本調査とは根本的に調査目的および調査対象者を異にしている。本調査の質問項目の一部にあえて上記調査内と同じものを使用したのは、小中連携を念頭に入れ小学校と中学校教員の意識を比較の必要性があるとの判断によるものである。

本アンケート調査の目的は、英語教育の経験を持たない小学校教員が、「英語活動」の導入に対しどのような意識を持っているのかを把握することである。これによって、今後の「担任が受け持つ英語学習」に対する提言に役に立てたい。

II　調査計画と調査内容

1．目的：勤務校が「全学年での英語活動導入」になった公立小学校教員の実施直前の意識を調査し、望ましい今後の方向性を探る

2．対象：N小学校の現職教員21名

　2.1.　回答数：21部（有効回収率100%）

　2.2.　内訳：クラス担任12名、専科教員8名、校長1名

3．調査実施時期：2004年7月23日

4．内容：(1) 英語活動の導入に対する期待度について

　(2) 英語活動に関する「経験と関心度」について

　(3) 自分が英語の授業を担当することに対して

(4) 英語活動の内容として適切なものについて

(5) 英語活動に関する困難な点や課題について

5．方法：質問紙調査

Ⅲ　調査結果と考察

(1)　期待度

英語活動の導入に関して、その期待の度合いを把握するために、「期待している」「どちらでもない」「期待していない」の3段階から該当するものを1つ選択してもらった。結果は次の通りである。

公立小学校に英語活動を導入することに関して「期待している」と回答した教員が19.0%、5人に1人の割合に対し、「期待していない」との回答が23.8%で、公立小学校への英語活動導入に関して「期待していない」という否定的な回答のほうがわずかに上回った。教員の50%以上の回答は「どちらでもない」であり、無関心の様子がうかがえる。

自由記述による「小学校における英語活動の導入に関する期待度」の理由には、次のような意見があった。

「世界の共通語であるから」

「複数言語が使えた方がよいから」

「将来、必要となるコミュニケーション能力や語学力が養えるから」

(どちらとも言えないとする場合の理由)

「先が見えないので、判断がつかないから。」

(期待していないとする場合の理由)

「なぜ英語をやるのか、自分でも本当には納得できていないし、子どもにも説明できないから。」

「子どもが興味を持てなければ嫌いになってしまうだけであるから。」

「指導者の育成がなされていない。また、小学校で扱う内容は簡単なものかもしれないが、教えるとなると難しいから。」

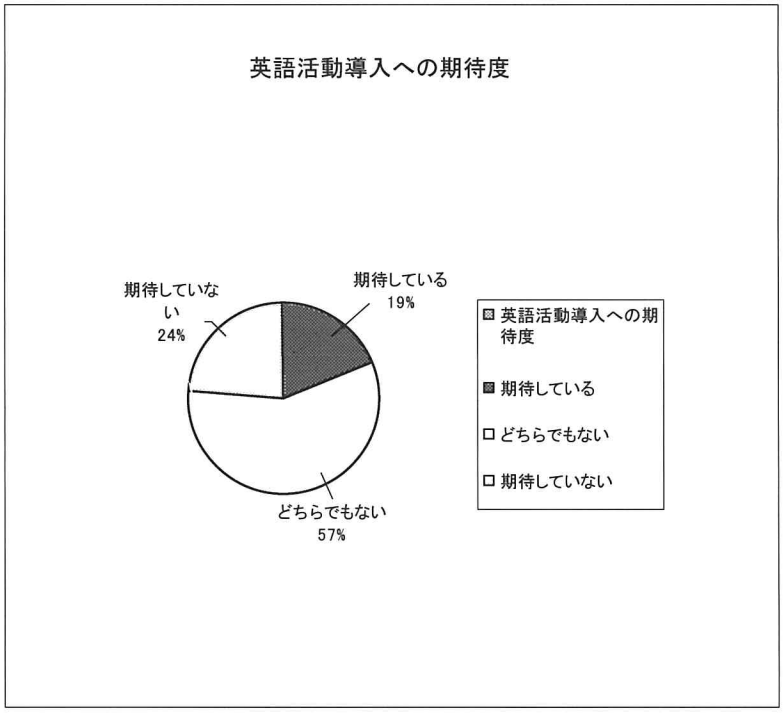

図1：英語活動への期待度

（2） 小学校の英語活動に関する「経験と関心」

小学校における英語活動に対する「関心」の度合いを把握するために、下記①～⑧までの項目について回答してもらった（複数回答）。

表１：小学校英語活動への「経験と関心」

調査項目	回答数
①研究大会、学会等へ出席する	1
②他校の英語活動を参観する	4
③児童英語教育関連の記事等を関心を持って読む	10
④児童英語教育関連の本、ビデオを購入する	2
⑤児童英語教育関連のテレビ番組を見ている	7
⑥小学校英語活動実践の手引き（文部科学省）に目を通した	4
⑦都内の公立小学校の英語活動の年間指導計画や指導内容、指導方法を把握している	2
⑧小学校での英語授業の経験がある	5
⑨その他	2
⑩記入なし	4

⑧の英語活動の経験については、「経験あり」と回答した５名の教員のうち４名は、平成13年度10月より５年生対象に開始し、平成14年度からは６年生でも始まった「英語教室」の担任である。また、本年度から英語活動を行っている小学校から入ってきた教員が１名いる。

児童英語教育への「関心」を問う項目の中では、③の項目が47.6％と最も高く、次が⑤「児童英語教育関連のテレビ番組を見ている」の33.3％であった。この上位２項目は、いずれも身近で簡単に入手できる方法である。一方、⑥「小学校英語活動実践の手引き（文部科学省）に目を通した」④「児童英語教育関連の本、ビデオを購入する」①「学会や研究会に出かける」など、自分から積極的にかかわろうとする教員は少ない。

（3） 英語の授業を自分が担当することに対して

「自分が英語の授業を担当することについて」については、４人に３人の教員は不安感を持っていることがわかった。一方、「特別な不安はない」という回答者は５人（23.8％）であった。この「特別な

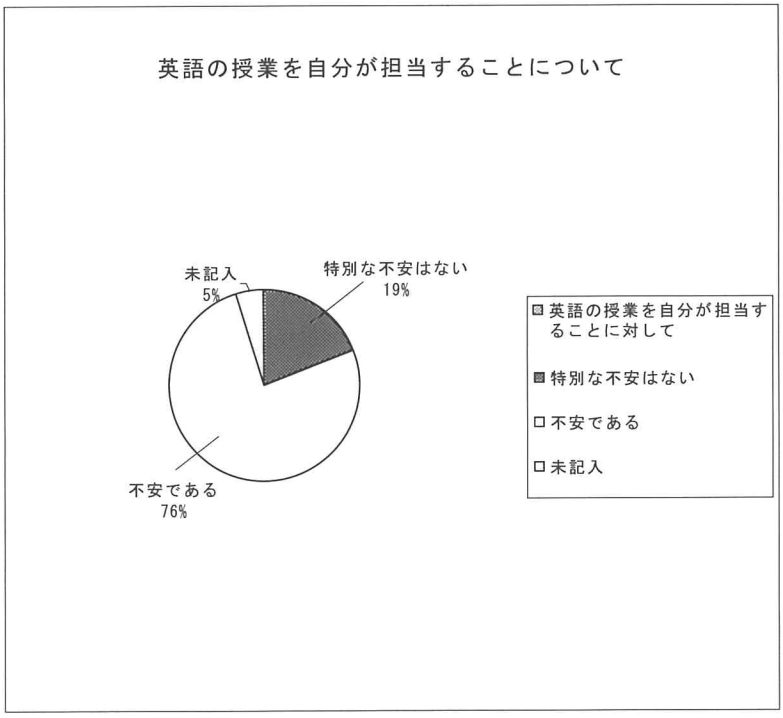

図２：英語の授業を自分が担当することについて

不安はない」と回答した教員の「英語活動への関心」についての相関関係を調べたところ、「特別な不安はない」との回答者は平均2つ（2.2）の活動を行っており、その中でも「研究大会、学会等へ出席する」「他校の英語活動を参観する」などの経験、「児童英語教育関連の本、ビデオを購入する」「小学校英語活動実践の手引きに目を通した」などを選択している。このように「英語活動への関心」が高く、積極的な勉強を行っている教員が多い。

一方、「不安である」との回答者は平均1つ（1.0）の活動は行っているが、「他校の英語活動を参観する」などの経験者3名、「小学校英語活動実践の手引きに目を通した」1名を除いては、「児童英語教育関連の記事を、関心を持って読んでいる」という回答者が7人（43.8%）、「児童英語教育関連のテレビ番組を見ている」との回答者が4人（25%）であり、自己研修への取り組みが消極的である。また、「不安である」と回答した教員16名の中には「まったく何もしていない」と回答した教員が3名おり、「英語活動」への無関心を示している。

自由記述による「英語授業の担当について不安である」と回答した理由には次のようなものがあった。

「子どもたちに何を教えるのか、把握できない。」
「話したい単語がすぐ出てこない。」
「自分が話せないから、特に発音がわからず、気持ちを込めた表現ができない。」
「発音も正確にできないので、非常に不安である。」
「発音や正しい英語が教えられるかどうか」
「英語活動の最終的なあるべき姿が見えない。」
「自分の英語力」
「指導法、指導計画ねらいなどが分からない」

（4） 公立小学校の英語活動内容として適切なもの

公立小学の英語活動の内容として適切なものとして、低学年では、「歌、チャンツ」「ゲーム」「英語絵本の読み聞かせ、人形劇、紙芝居」「基本的な会話のやり取り（挨拶、天気等）」、中学年では、「歌、チャンツ」「ゲーム」、「基本的な会話のやり取り（挨拶、天気等）」、高学年では、「話題や場面に応じた簡単な会話、スキットなど」「歌、チャンツ」「基本的な会話のやり取り（挨拶、天気等）」、「ゲーム的なコミュニケーション活動」「ゲーム」の順になった。

表2：英語活動内容として適切なもの（複数回答）

調査項目	低学年	中学年	高学年
①歌、チャンツ	20	17	14
②ゲーム	19	17	12
③ゲーム的なコミュニケーション活動	2	6	13
④絵本の読み聞かせ、人形劇、紙芝居、	10	6	4
⑤基本的な会話のやり取り（挨拶、天気など）	10	16	14
⑥話題や場面に応じた簡単な会話、スキットなど	1	7	17
⑦英語で他教科の内容学習や体験学習	0	0	2
⑧インターネットの利用（e-mail、ホームページ作成）	0	0	3
⑨外国人を招待しての交流行事・活動	5	8	11
⑩外国に関する話を英語で（英語を交えて）聞く	1	4	5
⑪アルファベットや簡単な単語の読み方	3	3	5
⑫アルファベットの書き方	0	4	4
⑬国際理解、異文化理解に関する調べ学習	0	3	10
⑭思いやり、協調性、などの人間性を育成する	3	4	4

また、全学年を通してあまり選択されなかった項目としては、「アルファベットや簡単な単語の読み方」「思いやり、協調性などの人間性を育成する」があがり、適切でない内容としては、「英語で他教科の内容学習や体験学習」「インターネットの利用（e-mail、ホームページ作成）」、「アルファベットの書き方」があげられた。低学年では適切でないが、高学年になるにつれて適切度が高くなるものでは、「英語で他教科の内容学習や体験学習」「国際理解、異文化理解に関する調べ学習」「ゲーム的なコミュニケーション活動」「話や場面に応じた簡単な会話、スキットなど」があげられた。

上記の結果は、2000年度JASTEC調査において得られた中・高校教員の考える活動内容と比較すると、ほぼ一致しており、両者間には共通認識が見ら

れる。

(5) 英語活動に関する取り組みにおいて、困っている点や課題

表3：英語活動への取り組みで困っている点や課題について
(複数回答)

問題点および課題	人数
英語力や国際理解教育に帯する知識が不十分	20
英語の教材研究や授業準備の時間がなく負担が大きい	15
研修時間の不足	13
他の教員との連絡や打ち合わせ時間の確保が困難	9
適切な年間指導計画を立案するのが困難	11
適切な授業方法、授業の進め方がわからない	6
適切なTTの進め方がわからない	15
保護者からの理解や協力が得られない	4

「英語活動に対する取り組みで困っている点」については、「英語力や国際理解教育に帯する知識が不十分」「英語の教材研究や授業準備の時間がなく負担が大きい」「適切なTTの進め方がわからない」「研修時間の不足」「適切な年間指導計画を立案するのが困難」の順となった。「特別な不安はない」という回答者5人(23.8%)であった。英語の授業を自分で担当することに「特別な不安はない」と回答した教員の「英語活動に対する取り組みで困っている点」について相関関係を調べたところ、「特別な不安はない」との回答者の回答項目で一番高かったのは「英語力や国際理解教育に対する知識が不十分」の4人(80%)であり、「適切な年間指導計画を立案するのが困難」3人(60%)であった。

一方、「不安である」と回答した教員の回答項目では、英語力や国際理解教育に対するする知識が不十分」15人(93.8%)「英語の教材研究や授業準備の時間がなく負担が大きい」14人(87.5%)、「適切なTTの進め方がわからない」13人(81.3%)、「研修時間の不足」11人(68.8%)、「適切な年間指導計画を立案するのが困難」9人(56.3%)の順となった。

自由記述による「英語活動への取り組みで困っている点」からは、次のような具体例が挙げられた。

「互いに英語の授業を参観したいがなかなかできない。」

「年間指導計画について(縦のつながりについても)校内での(教材、指導計画立案)組織作りや小学校における英語教育への認知度が不足している。」

「英語活動における、基本的な考え方、指導者としての考え方がわからない。」

「英語活動の指導技術。」

「授業の展開例。」

「ALL Englishの授業のやりかた。」

「英語力。聞く、話すといった基本的なところから学習したい。」

「先を見通すことができる指導計画、1時間ごとの指導計画。」

「授業パターンをいろいろ知りたい。」

「年間指導計画の作成。」

「適切な授業法、授業の進め方。」

「自分が英語を楽しく学べる時間と場所。」

「授業で必要な程度の英語力、日常会話ができるようにさせていただきたい。」

「授業の組み立て方(狙いをどこにおくか、展開方法、英語で授業を進める上での必要なものは?留意点は?)」

調査結果および自由記述内容から、小学校教員が必要としているのは、「自分の英語力のレベル・アップ」「カリキュラム、指導案などの作成方法に関する知識」等の研修であることがわかった。

このアンケート調査の最後に自由記述欄を設け、「自分が必要と感じ、今後受けたい研修内容」「その他」を設けた。以下がその内容である。

(自分が必要と感じ、今後自分が受けたい研修内容)

「英語活動についてどんな研修が必要か、それすらわからない。」

「ワークショップ形式で2—3人ずつのグループにわかれ(各学年など?)アクティビティを行う。(歌、ゲーム、スキットなど参加型のものを)」

「授業にすぐに役立つ指導法、教室で使う英語や発音の研修。」(5人)

「英語活動を通してどうコミュニケーション力を育てるか、具体的な例や指導方法など自分が実践

するために不可欠な研修。」（８人）
「流れを持った指導方法を知りたい。」
「自分が児童と同じように教えてもらう立場の研修。」

（その他のコメント）
「１時間ごとの積み重ねが大切だと思う。」
「課題山積みで、英語にまで手が回らない。」
「中学校の英語学習につながらなくても小学校独自のもの（学習）でよい。」
「テストや評価と関連のない楽しいものであってほしい。」
「話せると言う楽しくて通じることが重要。」
「自己表現力とかコミュニケーションとか重要に考えないでよいのでは。」
「単発やただ新しい教育みたいな感じで取り組んではいないか。」
「日本語をきちんと使えるようにしながら英語も…だと思う。国際人として生きていく、これからの人にとって世界で一番よく使われている英語が使えるようになることはよいことだと考える。ただし、日本人として、自国の文化等もきちんと理解し相手のことも理解、人として互いを尊重した関わりが持てたらよいと思う。」
「指導者がいかに自分のからを破れるかが大切である。」

Ⅳ　結果のまとめ

本アンケート調査では、全校で担任が「英語活動」に取り組むことになった、今までに英語教育に関する勉強を正規にしたことがなく、また関わった経験のない小学校教員が、導入に対しどのような意識を持っているのかを調査した。その結果、一般の教員の考えかたが明らかになったと思われる。

本調査結果から次のようなことが明らかとなった。児童英語教育への「関心」の度合いに関しては、教員の半数近くは児童英語教育関連の新聞記事等を関心を持って読んでおり、３人に１人の割合で児童英語教育関連のテレビ番組を見ている。教員の意識の中に、「小学校における英語教育」が自分にとって無視できないことであり、身近で簡単に入手できる情報を得ることを始めていることがわかった。しかし、関連のビデオや図書の購入、研究会に出かける等、自発的に積極的な情報入手や学習といった行動を起こしている教員は少ない。

英語活動担当については４人に３人の教員が不安感を抱いている。しかし、不安感を持っている教員のほうが「特別な不安感はない」としている教員と比べ、「英語教育への関心度」が低く、まだ積極的に勉強を始める等の行動を起こすまでには至っていない。英語活動に対する取り組みで困っている点については、「自分との英語力や国際理解教育等に対する知識不足」、「専門的な勉強をしていないことからカリキュラム、教材開発、レッスンプランなどの作成方法がわからない」の２点が特に大きい問題点であることがわかった。また、受けたい研修内容に関する自由記述からも、「自分の英語力を高めたい」「指導案作成方法」「すぐに使えるゲーム、歌など」の現場の声が多くあげられたが、その基礎となる理論的な研修内容を必要とする意見はなかった。応急処置的なゲームや英語の歌の紹介といったものでは、長期的な対応はできない。

諸外国の中で、英語を小学校の教科として導入している国の数は年々増加し、韓国では1997年に初等学校３年生から、台湾では2002年に初等教育の中で教科導入された。日本においては、いまだ教科化への指針も示されておらず、教員養成や研修は大幅に立ち後れている。担任の養成目的とした長期研修プログラムの充実、教材、カリキュラムの開発が強く望まれる。

（今後の課題）

本調査をとおして、担任の不安感、研修を望む現場の声が明らかになった。この研究結果は、都内の公立小学校１校のみでの調査であり、方法として若干の有効性に欠ける点があることは歪めない。しかし、本調査による結果は、英語教育導入直前の意識、将来の「英語の教科導入」を見据えた場合、参考になるものと考える。

Ｎ小学校においては、本年度９月より全学年で担任による英語活動の時間がスタートした。平成18年のプロジェクト終了時に同じ内容の調査を行い、教員の意識の変化とその理由に関する調査を予定している。

参考文献

片桐多恵子ほか（2001）「小学校への英語教育導入について」の公立小学校教員の意識調査―愛知県・静岡県・岐阜県の場合―『日本児童英語教育学会研究紀要』第20号　p. 109

樋口忠彦、加賀田哲也、篠原陽子ほか（JASTEC関西支部調査研究プロジェクト・チーム（2001）「小学校英語活動に対する中・高英語教員の態度及び意識に関する研究」『日本児童英語教育学会研究紀要』第20号、pp. 19-37

冨田祐一・後藤典彦（編著）（2001）「今後の展望と課題」『はじめてみよう！　小学校・英語活動』アプリコット

資料1

N小学校における「英語活動」に関するアンケート

Ⅰ　公立小学校に英語活動を導入することに関して、最も近い項目の番号に、○を付けて下さい。

①期待している　②どちらでもない　③期待していない

選択理由をお書き下さい。

Ⅱ　小学校の英語活動に関する「経験と関心」について、

（1）　次の項目について、既に経験、実践している項目に○を付けて下さい。（複数回答）

①研究大会、学会等へ出席する
②他校の英語活動を参観する
③児童英語教育関連の記事等を関心を持って読む
④児童英語教育関連の本、ビデオを購入する
⑤児童英語教育関連のテレビ番組を見ている
⑥「小学校英語活動実践の手引き」（文部科学省）に目を通した
⑦都内の公立小学校の英語活動の年間指導計画や指導内容、指導方法を把握している
⑧小学校での英語の授業経験している
⑨その他：（具体的に）

（2）　英語の授業をご自分が担当することに対して、

①特別な不安はない　②不安である

（3）　上記（2）で、「②不安である」と答えた方のみ、具体的な内容をお書き下さい。

Ⅲ　下記の項目について、公立小学校の英語活動に期待する度合いを示した、－1，0，1から1つ選び、○をお付け下さい。

－1	0	1
期待していない（望ましくない）	どちらでもない	期待している（望ましい）

①　－1　0　1
英語を学ぶ楽しさを体験させ、英語学習への興味・関心を抱かせる。

②　－1　0　1
英語を聴いて意味を理解（推測）する力を身につけさせる。

③　－1　0　1
英語の発音を身につけさせる。

④　－1　0　1
アルファベットや基本的な単語を読む力を身につけさせる

⑤　－1　0　1
アルファベットを書く力を身につけさせる。

⑥　－1　0　1
基本的な日常英会話表現や生活に身近な単語に慣れ親しませ初歩的なコミュニケーションや自己表現の能力を身につけさせる。

⑦　－1　0　1
積極的に英語でコミュニケーションを図る態度を身につけさせる。

⑧　－1　0　1
外国人や外国の生活，文化に慣れ親しませる。

⑨　－1　0　1
外国人と違和感なく接する態度を身に付けさせる。

Ⅳ　公立小学校の英語活動の内容として、より適切と思われるものを下記の中から学年に応じて選び（複数可）、その番号をお書き下さい。

（低学年）　＿＿　＿＿　＿＿　＿＿　＿＿
（中学年）　＿＿　＿＿　＿＿　＿＿　＿＿
（高学年）　＿＿　＿＿　＿＿　＿＿　＿＿

①　英語の歌、チャンツ
②　英語のゲーム（フルーツバスケット、Simon says等）
③　ゲーム的なコミュニケーション活動（インタビューゲーム、推理ゲームなど）
④　人形劇、紙芝居や絵本の読み聞かせ
⑤　挨拶、日付、天候などの基本的なやりとり
⑥　話題（好きな食べ物、趣味など）や場面（電話、買い物等）に応じた簡単な会話、役割練習やスキット

⑦ 英語で他教科の内容学習（社会、理科、算数等）や体験学習（図工、料理、体育等）
⑧ インターネットの利用（E-Mail、ホームページ作成、閲覧など）
⑨ 外国人を招いての交流行事・活動
⑩ 外国に関する話を英語で、（または英語を交えて）聞く
⑪ アルファベットや簡単な単語の読み方
⑫ アルファベットの書き方
⑬ 国際理解、異文化理解に関する「調べ学習」
⑭ 思いやり、協調性、温かい心、慣用的な態度などの「人間性」を育成する
⑮ その他（具体的に：　　）

V 英語活動に関する取り組みにおいて、困っている点や課題は何ですか。該当する項目すべてに○を付けて下さい。

① 英語力や国際理解教育に対する知識が不十分である。
② 英語の教材研究や授業準備の時間的余裕がなく、肉体的、精神的負担が大きい。
③ 研修時間が不十分である。
④ 他の教員（同学年担任、外国人講師等外部の非常勤講師）との連絡や打ち合わせの時間の確保が困難である。
⑤ 適切な年間指導計画を立案するのが困難である。
⑥ 適切な教材、教具の確保が困難である。
⑦ 適切な授業方法、授業の進め方がわからない。
⑧ 適切な TT の進め方が分からない。
⑨ 保護者からの理解や協力が得られない。
⑩ その他（具体的に：　　）

コメント欄

＊ 英語活動のための研修や研究会に対して、今、ご自分が必要と感じている内容について、具体的にお書き下さい。

＊ 今後、どのような研修を受けたいと思いますか？

＊ その他、小学校における英語活動に対するご意見がありましたら、ご自由にお書きください。